

2021 年度 小委員会活動成果報告

(2022 年 2 月 15 日作成)

小委員会名	環境行動研究小委員会	主 査 名：林田 大作 就任年月：2020 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画委員会 (計画基礎運営委員会)	委員長名：小野田 泰明 主 査 名：日色 真帆
設 置 期 間	2020 年 4 月 ～ 2022 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>環境行動研究的視点から、人びとのふるまいと環境の関係、人びとによってつくられ、支えられ、守られている場所の質、社会つながり、建築・都市空間の計画のあり方などを分析・考察するとともに、現代社会における諸課題を解決し、未来社会に貢献しうる環境行動理論の構築を目指す。</p> <p>初年度：「居心地の良い暮らし研究 WG」の立ち上げ、環境行動研究関連の文献・情報源の整理とデータベース作成</p> <p>2年度：「環境行動のワークブック研究 WG」の立ち上げ、シンポジウムまたは合同研究会の開催、研究成果の公表</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無	
	主査：林田 大作(畿央大学) 幹事：小松 尚(名古屋大学)、藤田 大輔(福井工業大学) 委員：橋 弘志(実践女子大学)、水村 容子(東洋大学)、岩佐 明彦(法政大学)、伊藤 俊介(東京電機大学)、山田 あすか(東京電機大学)、垣野 義典(東京理科大学)、小林 健治(摂南大学)、三浦 研(京都大学)、石井 敏(東北工業大学)、巖 爽(宮城学院女子大学)、熊澤 貴之(茨城大学)、前田 薫子(佐藤総合計画)	
設置 WG (WG 名：目的)	居心地の良い暮らし研究 WG：「北欧流「ふつう」暮らしからよみとく環境デザイン(2018年)」「まちの居場所 ささえる/まもる/そだてる/つなぐ(2019年)」の成果に立脚し、新たな課題の検討、現在および未来の建築計画・設計に有用な知見のまとめ	
2021 年度予算	135,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://news-sv.ajj.or.jp/keikakusub/s17/

項 目	自 己 評 価
委員会開催数	6 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	シンポジウム「オランダ・スウェーデンにおける“居心地の良い暮らし”に学ぶ —共生の住まいコレクティブ・ハウスから学べること」 <div style="text-align: right;">参加者数 40 名</div>
大会研究集会	
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	従来の建築計画学だけでは予測・対応できない人びとの環境構築行動、社会システムと人びとの暮らしの実態・実践・予測を含む理論の構築、建築計画・設計に有用な知見のまとめ、情報発信。
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	1. 「居心地の良い暮らし研究 WG」にてシンポジウムを開催した。 2. 「環境行動のワークブック研究 WG」にてオンライン合宿を開催し、集中的な議論と意見交換を行った。
委員会活動の問題点 ・課題	1. コロナ禍により対面でのイン会活動を中止し、オンラインを活用した。 2. 「新しい生活様式」と生活の質 (QoL) を「居心地」という視点から考察する手法を開発する必要がある。